

事業成果報告書

〔取組Ⅰ〕 都道府県教育委員会による小中一貫教育推進に関する取組

1. 都道府県教育委員会名 : 山口県教育委員会
2. 取組の名称 : 山口県小中一貫教育推進事業

3. 事業の実績

(1) 事業のねらい

モデル地域・学校においては、小中間の滑らかな接続をめざし、コミュニティ・スクールの仕組みを生かして、保護者や地域の方も交えた合同研修会や小中合同学校運営協議会等に計画的・継続的に取り組む。県教委においては、モデル地域・学校に対して進行管理・指導助言を行い研究の質を高めるとともに成果を県内外に発信することで、全県的に中1ギャップの解消を図り、小中連携・一貫教育の充実に資する。

(2) 事業の実施状況

○モデル地域、モデル校訪問(年2回程度)
モデル地域・モデル校を訪問し取組状況を確認し、進行管理及び指導助言を行った。特に9つの取組の視点に着目し、系統性・連続性を強化したカリキュラム編成・実施を意識した一貫教育を推進するように指導助言

○山口県小中一貫教育推進協議会(年2回)
各モデル地域・学校に共通する課題について指導助言・協議を行った。3回目は、全ての市町教委担当者等も参加し、モデル地域の取組を紹介することにより、全県への周知を行った。

○やまぐち小中一貫教育実践発表会 in和木・岩国
和木町立和木小学校、和木中学校を会場として、公開授業や両市町教委、モデル校の具体的な取組の実践発表、大学教授による講演会を内容とした小中一貫教育の具体的実践発表会を開催し、県内全小中学校への情報発信を行った。

○先進地視察
小中一貫教育及び地域と一体となった教育に先進的に取り組む他県の学校を訪問し、その事例をモデル地域に紹介した。

○「子どもたちの9年間をつなぐ～小中一貫教育の推進に向けて～」の作成・配布
3年間のまとめとして、モデル校での実践事例を集約した事例集を作成し、県内全ての小・中学校へ情報発信することにより、小中一貫教育の成果や具体的な取組状況について情報を発信した。

(3) 事業の成果

○モデル地域において、小中一貫教育を全中学校区で実施を決定した市町や、モデル地域以外にも小中一貫教育を実施する市町が増えた。
※H32から全中学校区で実施：岩国市・宇部市・光市
時期は未定であるが今後実施：和木町、上関町、萩市

○先進校視察や研修会の開催により、他県、他市町の小中一貫教育の取組について多くの情報を得ることができ、モデル校における小中一貫教育の取組が進んだ。

○モデル地域以外でも、小中一貫教育を域内で取り組もうと検討している市町教育委員会が増加してきた。

○やまぐち小中一貫教育実践発表会 in和木・岩国では300人以上の参加者があり、モデル校の取組をロビーでパネル展示するなどにより、具体的な取組を紹介し、小中一貫教育への今後の取組のための情報提供をするとともに、岩国市、和木町の全ての小・中学校の教職員の意識の向上を図ることができた。

○小中一貫教育の取組を推進することで、小・中学校の円滑な移行による中1ギャップの解消、教職員の連携等により、県全体のいじめ解消率97.8% (H27年度値)が98.3% (H29年度値)に+1.5%向上した。

○学校運営協議会の仕組みを活用した小中一貫教育の成果として、全てのコミュニティ・スクールを対象としたアンケートの結果から、教職員の連携・協働の意識が高まっていること、授業や指導の系統性を学校間で意識した取組が行われていることを確認できた。
(下記4-(3)の結果を参照)

(4) 今後の取組予定

<p>○「子どもたちの9年間をつなぐ～小中一貫教育の推進に向けて～」を活用したモデル地域以外の市町へのさらなる周知</p> <p>○各市町の小中一貫教育推進協議会等による学校同士の情報共有</p> <p>○各市町のモデル校の取組への支援</p>
--

4. 取組 I の実績

(1) 取組のねらい

<p>各モデル地域の状況を把握し、共通する課題解決に向けた研修と各モデル地域の取組について情報交換の場を設定し、各市町における域内全域での小中一貫教育の取組普及を支援する。</p>
--

(2) 取組 I の実施状況 (平成30年度)

6月	・モデル地域・モデル校訪問①(今年度の小中一貫教育の取組計画の確認と取組状況の把握)
7月	・第1回山口県小中一貫教育推進協議会(7/6)
8月	・宇部市小中一貫教育推進研修会(8/2)への支援:宇部市の実践事例発表
9月	
10月	・第2回岩国市和木町合同協議会
11月	・やまぐち小中一貫教育実践発表会in和木・岩国(11/27):和木町、岩国市の実践事例発表 ・研究実践発表会(11/20)への支援:萩市立小中一貫教育校福栄小中学校の発表 ・周南市教育研究発表会(11/16)への支援:周南市立鹿野小学校、中学校の発表
12月	・「子どもたちの9年間をつなぐ～小中一貫教育の推進に向けて～」の作成開始
1月	・第2回山口県小中一貫教育推進協議会(1/17)
2月	・「子どもたちの9年間をつなぐ～小中一貫教育の推進に向けて～」の校正、印刷
3月	・山口県の全教職員を対象とした広報誌「ニューズレター」に取組を掲載 ・「子どもたちの9年間をつなぐ～小中一貫教育の推進に向けて～」の配付(全小・中学校)

(3) 取組の成果

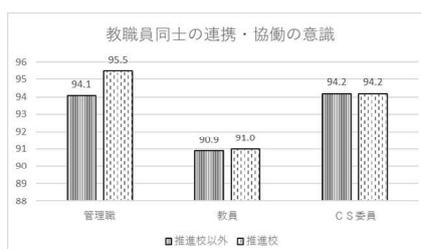
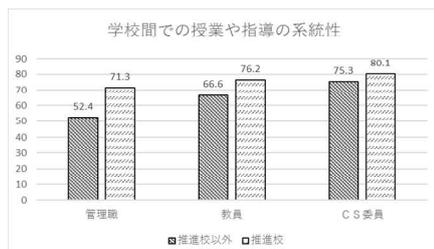
○モデル地域では、小中一貫教育の「めざすべき子ども像」を全て学校が設定し、「9年間の教育目標」の設定と「9年間のカリキュラム」をほとんどの学校で整備することができた。

○小中一貫教育に関する仕組みについての周知は、ほぼできていると捉え、モデル地域の取組状況に応じた課題を共有したり、課題解決に向けての具体的な方法について、情報交換の場を設定したりすることができた。

○モデル校の中で、具体的な交流や合同行事を「地域連携カリキュラム」の中に位置付けるとともに、小・中学校が同じ学習スタイルを取り入れたり、乗り入れ授業に取り組んだりする学校が多くなった。

○県主催のモデル地域以外も参加する協議会を開催したことにより、小中一貫教育について域内で推進しようとする市町教委が増えてきた。

○県内全ての小・中学校において行った「『やまぐち型地域連携教育』の取組による成果検証にかかる調査」において、教職員の意識の向上や学校間での指導の系統性についての成果が見られた。(あてはまる、どちらかといえばあてはまるの肯定的回答の割合)



「教職員の連携・協働の意識」については、モデル校とそれ以外の学校を比較すると、若干ではあるが、高い傾向にある。山口県では、中学校区においての合同研修会等が多く、多くの学校で行われているため、教職員も学校運営協議会委員も高い評価をしている。教職員の意識をさらに高めていく必要がある。

「学校間の授業や指導の系統性」については、モデル校においてかなり高い結果が出ている。コミュニティ・スクールの仕組みを活用しながら、小中一貫教育に取り組むことで、特に9年間を通じたカリキュラムの作成により、学校も地域も系統的な教育を行うことができていると感じている。今後も小中一貫教育の推進を図り、モデル地域以外の市町に対しても効果を周知していく必要がある。

(4) 今後の取組予定

- 「子どもたちの9年間をつなぐ～小中一貫教育の推進に向けて～」を活用したモデル地域以外の市町へのさらなる周知
- 各市町の小中一貫教育推進協議会等による学校同士の情報共有への支援
- 各市町のモデル校の取組への支援

5. 「取組Ⅱ」を実施した協力市町村教育委員会等

通し番号	教育委員会等の名称	
Ⅱ-1	岩国市教育委員会	
Ⅱ-2	和木町教育委員会	
Ⅱ-3	周南市教育委員会	
Ⅱ-4	萩市教育委員会	
Ⅱ-5	宇部市教育委員会	
Ⅱ-6	山陽小野田市教育委員会	

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－１

1. 市町村教育委員会等の名称

:

住所	:	山口県岩国市今津町 1丁目14-51
代表者職・氏名	:	教育長 守山 敏晴

2. 取組の名称

: 岩国市小中一貫教育推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

<p>○岩国市小中一貫教育の推進計画・推進方針、ガイドライン、Q&A集、リーフレットを活用して、周知・啓発を行う。</p> <p>○モデル校においては、中学校区で、9か年を見通したカリキュラムの編成に取り組むとともに、コミュニティ・スクールを基盤とした活動を活性化させる。</p> <p>○モデル校の取組、取組の成果等を市内の小・中学校に情報提供することにより、地域の特色を生かした「地域とともにある学校づくり」を加速させる。</p> <p>○やまぐち小中一貫教育実践発表会を開催し、教職員及び保護者、地域住民への周知を図る。</p>

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成30年度）

6月	第1回岩国市小中一貫教育モデル校連絡協議会
7月	第1回山口県小中一貫教育推進協議会
8月	第1回岩国市小中一貫教育推進委員会
9月	
10月	岩国市和木町合同協議会
11月	先進地・先進校視察Ⅰ（姫路市立城北小学校、姫路市立白鷺小中学校） 先進地・先進校視察Ⅱ（品川区立八潮学園、品川区立日野学園） 先進地・先進校視察Ⅲ（奈良市立富雄第三小中学校、奈良市立田原小中学校） やまぐち小中一貫教育実践発表会in和木・岩国の開催
12月	
1月	第2回山口県小中一貫教育推進協議会 先進地・先進校視察Ⅳ（小中一貫教育小規模校全国サミットin大原）
2月	第2回岩国市小中一貫教育推進委員会
3月	

(3) 取組の成果

○岩国市小中一貫教育の推進計画や推進方針、ガイドライン、Q&A集、リーフレットを作成し、岩国市ホームページで公開した。また、校長会で説明し、岩国市校務支援システムの掲示板に掲載して、学校への周知を図った。それらの資料は、各学校において印刷することもできるので、校内研修や中学校区研修会で活用したり、学校運営協議会委員や保護者等への周知のために活用したりした。

○モデル中学校区においては、「めざす子ども像」を共有し、小中合同研修会などにおいて小中学校相互の教員や学校運営協議会委員の参加による熟議等を通じて、9年間を見通したカリキュラム【縦のつながり】の本格的な編成に入った。また、同時に、コミュニティ・スクールとしての活動【横のつながり】も活性化した。

これらのことにより、教職員及び児童生徒の交流がより一層盛んになった。

○結果として表れた数値

①学校適応 不登校児童生徒数の低下 ※平成27年度比

- ・不登校の出現率は、微増であった。(山口県全体、岩国市全体の不登校児童生徒が増加している。また、平成27年度の長期欠席の分類方法が変更になったことも重なり、十分な成果を検証することができなかった。)

②学力向上

- ・全国学力・学習状況調査(全国平均との差)

※平成27年度比

小学校	国語	+10.0ポイント
	算数	+ 3.5ポイント
中学校	国語	+ 3.0ポイント
	数学	+ 2.8ポイント

③学校満足度 中学校区ごとのアンケートより

※平成27年度比

- ・学校満足度が4段階で0.3ポイント上昇(本郷中学校区)
- ・中学校へ進学に不安を覚える児童の減少(通津小学校)
- ・学校に行くのが楽しいと感じている児童生徒が4段階で0.5ポイント上昇(東中学校区)

④小中及び小小の交流回数

※平成27年度比

- ・教職員の授業見学や合同研修会などの交流回数 3倍
- ・児童生徒の交流回数 3倍

○モデル中学校区のみならず、他の中学校区においても、「めざす子ども像」を共有し、小中合同研修会を行うなど、特色のあるカリキュラムづくりに取り組んだ。

○先進地・先進校視察を通して、具体的な小中一貫校の取組状況を知り、来年度の小中一貫教育の試行に向けた計画やカリキュラムの作成に生かすことができた。

○小中一貫教育推進委員会委員に専門家や保護者代表、地域住民を入れることにより、それぞれの立場からの意見を得ることができた。

○やまぐち小中一貫教育実践発表会において、教職員のみならず、学校運営協議会委員や保護者等へ「岩国市がめざす小中一貫教育」について、広く理解を得ることができた。

○本市は全ての小・中学校がコミュニティ・スクールに指定されているため、横のつながり(地域連携)が土台となって、小中連携教育から小中一貫教育へのスムーズな移行につながっている。

(4) 今後の取組予定

○今年度末までに、今ある基本計画・基本方針、ガイドライン、Q&A集、リーフレットを見直し、改善する。

○市のホームページに引き続き、小中一貫教育に係る情報を掲載し、市内外に広く周知する。

○モデル校連絡協議会及び推進委員会を開催し、取組の評価及び点検を行う。また、各学校のカリキュラムについて検討する。

○コミュニティ・スクールの仕組みを生かした小中一貫教育を推進し、地域の特色を生かした「地域とともにある学校づくり」を加速させる。

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－２

1. 市町村教育委員会等の名称 : 和木町教育委員会

住所	: 山口県玖珂郡和木町和木2丁目 1番1号
代表者職・氏名	: 教育長・重岡 良典

2. 取組の名称 : 小中一貫型 和木小学校・和木中学校における和木学園構想の実現に向けて

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

「町ぐるみ『和木学園』」構想を実現させる。平成31年度のこども園開園に向けて、これまでの園小中の連携をより強固なものにする。また、これからの連携の在り方や様々な課題の解決に向けて具体的な方策を探る。そして、ふるさと和木に誇りと愛着を持ち、和木の将来を担う人づくりを行う。

①15年間のカリキュラムの作成と実践
 ・全教職員が園小中一貫教育のつながりを理解でき、実用性のあるものを作成する。

②ふるさと和木に誇りと愛着を持ち、和木の将来を担う人づくりの推進
 ・「園小中一貫教育」と「やまぐち型地域連携教育」を絡め、協働して将来の和木町を担う人づくりを推進する。

③小中一貫教育実践発表会の開催
 ・和木町の実践を県内に向けて発信し、これまでの成果と今後の課題を知る。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成30年度）

6月	<ul style="list-style-type: none"> ・町小中校長会 ・カリキュラム部会、外国語部会、ふれあい体験部会、道徳部会の開催 ・岩国市との担当者合同会議
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回町「教師の日」運営協議会 ・カリキュラム部会、外国語部会、ふれあい体験部会、道徳部会の開催 ・岩国市との担当者合同会議
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・町夏季教職員研修会（園小中一貫教育の推進、やまぐち小中一貫教育実践発表会in和木・岩国について）、学力向上部会、心の教育部会、体力向上部会 ・カリキュラム部会、外国語部会、ふれあい体験部会、道徳部会の開催 ・第2回町CS委員会 ・小中一貫教育モデル校連絡会（「小中一貫教育実践発表会」等協議：岩国市と合同で） ・岩国市との担当者合同会議
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・岩国市との担当者合同会議 ・カリキュラム部会、外国語部会、ふれあい体験部会、道徳部会の開催
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・岩国市との担当者合同会議 ・カリキュラム部会、外国語部会、ふれあい体験部会、道徳部会の開催

11月	<ul style="list-style-type: none">・岩国市との担当者合同会議・カリキュラム部会、外国語部会、ふれあい体験部会、道徳部会の開催・小中一貫教育先進校視察（京都府） <p>★やまぐち小中一貫教育実践発表会in和木・岩国【和木町で開催】 【福岡教育大学 教職大学院 教授 脇田 哲郎 先生】</p>
12月	<ul style="list-style-type: none">・町冬季教職員研修会(園小中一貫教育これからの方向性について)
2月	<ul style="list-style-type: none">・第3回町CS会議・小学6年生中学校体験授業と体験部活動・県市町幼保小連携担当指導主事連絡協議会
3月	<ul style="list-style-type: none">・町一貫教育推進協議会、委員会（今年度の振り返り）

(3) 取組の成果

【15年間のカリキュラムの作成と実践】

①15年間を貫くカリキュラムの完成

「園小中一貫英語（外国語）指導計画」、「園小中一貫キャリア教育指導計画」及び「重点内容項目等から見通した園小中一貫道徳科等教育指導計画」を策定した。15年間を貫く計画となり、これからの園小中一貫教育推進の基礎固めを行うことに繋がるものである。また、「こども園と小学校」及び「小学校と中学校」を繋ぐ接続期カリキュラムを作成し、特に接続期における段差解消に繋がる取組の基礎を築くことができた。

②カリキュラムに沿った実際の活動

実際の活動としては、小学6年生が中学校で、中学校教員による外国語活動の授業を受けることで、中学進学時の不安、いわゆる「中1ギャップ」の解消を図った。また、部活動体験では、小学生が中学生から様々な競技を教わることで、上級生に対する信頼や安心感をもつことができるようになった。そして、幼稚園年長児と小学5年生との交流活動は、新年度には最上級生と新1年生となる子ども同士での顔あわせの場であり、5年生にとっては、最上級生としての意識を高める場となった。年長児にとっても、小学校が安心して学べる場であると知るよい機会となった。

【ふるさと和木に誇りと愛着を持ち、和木の将来を担う人づくりの推進】

①和木町コミュニティ・スクール委員会を中心とした取組

コミュニティ・スクール委員会を中心として、園小中が連携して取り組む活動の課題分析と目標設定を行い、教職員研修会において、活動の計画を立て、各園校において実際の活動に移すことができた。学力向上部会、心の教育部会、体力向上部会の3部会による研修を進める中で、共通して取り組める活動の実施と検証、改善を繰り返す体制を構築した。成果として、小中合同の「あいさつ運動」、園小中で取り組む「おむすび弁当の日」の実施、「わきっこスタンダード」の徹底など、内容の共通化と継続性を考えながら、その活動を進化、充実させていくことができた。

②和木町教職員研修会

小中一貫教育実践発表会に関する研修及びやまぐち型地域連携教育に関する研修会をCS委員にも参加していただき、行うことができた。これからの学校運営協議会の在り方や、地域人材の協力をいただきながら進めていくコミュニティ・スクールの方向性について深く学ぶことができた。和木町の園小中一貫教育とやまぐち型地域連携教育を基軸にして、「将来の和木町を担う人材を園小中教職員と地域住民が協働して育成する」という意識の高揚に繋がった。

【小中一貫教育実践発表会の開催】

①やまぐち小中一貫教育実践発表会in和木・岩国

和木町立和木小学校、和木中学校、和木町文化会館において、「やまぐち小中一貫教育実践発表会in和木・岩国」を開催し、当日は、県内外から約300名の方々に御来町いただいた。午前中は公開授業、午後からは全体会を行い、盛会のうちに発表会を終えることができた。岩国市との合同開催であり、長期にわたって協働して活動を展開することができた。他市との相互理解にもつながり、今後の連携をスムーズに行うことができる、よいきっかけとなった。そして、県内外に和木町の取組を発信することができ、加えて御来町いただいた教育関係者から、多くの御示唆をいただくことができた。それらは、今後の課題確認とこれからの取組の方向性を考える上での一助となった。今回「やまぐち小中一貫教育実践発表会in和木・岩国」に向けて取り組んできた経験や実績が土台となり、平成31年度の和木町こども園開園を新たな園小中一貫教育のスタートと位置付け、一貫教育を一層加速させていくことができると感じている。

②合同会議の実施

実践発表会に向けて、幼稚園、小学校、中学校の教職員による合同会議を、何度も開催することにより、教員の協働意識がさらに高まった。園小合同授業や小中合同授業の実施回数が増え、子ども同士の交流時間が増加し、子どもも教師も連携における協働の深まりが増した。特に、合同授業においては、子ども同士の活発な意見交流や交流活動により、園小中連携における協働および仲間意識の高まりが感じられるようになった。

③学力向上につながる成果

学力面においては、特に小学校の伸びが顕著であり、組織的な学力向上に向けた取組の成果が結果として表れている。中学校においては、小学校での学力向上に向けた取組を参考にして、小学校から中学校までの連続した取組につながるよう活動計画を立てて実施する必要がある。

(4) 今後の取組予定

- ①ふるさと和木に誇りと愛着を持ち、和木の将来を担う人づくりの推進
和木町コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、園小中一貫教育における、地域の方々の参加を促し、町ぐるみで子どもを育てる意識を浸透させていく。特に「キャリア教育」の充実においては、地域人材の積極的な参加を促せるような仕組みを整え、各園校においては、共通する活動の連続性を理解、整理する必要がある。さらに、「英語教育」では、こども園からはじまる15年間を見通したカリキュラムの検証・改善を進め、教職員による共通理解のもと、一貫した目的に沿って行われる取組を、新たに進めていく必要がある。
- ②園小中一貫コミュニティ・スクールの推進
幼稚園と小学校、中学校における連携から、保育の領域まで含めた連携へと発展させていく必要がある。町ぐるみ和木学園構想における「生まれてから中学校卒業」までを一連の流れとして捉え、義務教育終了までを一つの目安として連続的に進めていくカリキュラムの再検証と、保育の領域を加えた連携における活動を充実させていくことに取り組む。

事業成果報告書

[取組Ⅱ] 市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－3

1. 市町村教育委員会等の名称 : 周南市教育委員会

(住所 : 周南市岐山通1-1
代表者職・氏名 : 教育長 中馬 好行)

2. 取組の名称 : 周南市小中一貫教育推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

小中一貫教育を研究するモデル校区を指定し、学校や地域の特色を生かした小中で一貫した取組について研究する。その取組の内容や成果・課題について市内全域に情報発信し、市内全中学校区での小中で一貫した教育への関心の高まりや取組の充実につなげる。

(2) 取組Ⅱの実施状況(平成30年度)

6月	鹿野小・鹿野中合同校内研修会(方向性の確認、授業研究・部会別協議)
7月	鹿野小・鹿野中合同校内研修会(授業研究・部会別協議)
8月	鹿野小・鹿野中合同校内研修会(地域の方と共に熟議)
9月	鹿野小・鹿野中合同校内研修会(指導助言者による指導)
10月	鹿野小・鹿野中合同校内研修会(授業研究・部会別協議)
11月	周南市教育研究発表会の開催(会場校は本年度モデル校区の鹿野小学校・鹿野中学校)
12月	周南市教頭会(小中一貫教育について研修)
1月	県外先進校の視察(松江市立八雲小学校・八雲中学校、松江市立義務教育学校八束学園)
2月	周南市小中一貫リーフレットの作成
3月	周南市小中一貫リーフレットの配付(市内小中学校の全教職員)

(3) 取組の成果

【モデル校区における成果】

- 乗り入れ授業等を定期的に行い、児童生徒の学力向上を図ることができた。
また、小中の教職員、地域住民がめざす子ども像を共有し、学校生活の多くの場面で子どもたちに関わることで、鹿野の子どもたちが抱える課題の一つであるコミュニケーション能力の育成にも成果が感じられる。
- 小中教職員合同の研修会・会議などを定期的に行い、お互いに授業参観や意見交換をすることにより、授業力の向上など、教職員の資質の向上を図ることができた。
- 学校運営協議会委員にも小中一貫教育への理解を深めてもらい、小・中学校と地域が連携し、9年間を見通して子どもに関わろうとする機運が高まった。

【その他の校区における成果】

- 発表会やリーフレットによりモデル校区の取組を知り、コミュニティ・スクールの取組と一体的に進めながら、地域と共に小・中学校の連携を深めることができた校区が多い。
教頭を対象とした12月の研修会では、熱心に協議する教頭の姿が見られた。後日、カリキュラム編成について具体的な取組につなげる校区もあり、市内全域において意識の高まりが感じられる。

(4) 今後の取組予定

- この3年間で、5つのモデル校区を中心に、小中連携から小中一貫へとつながりを深めてきた。この3年間の取組をベースに、各中学校区が主体性をもちながら具体的な取組を推進し、充実できるよう支援する。
また、この3年間の取組の成果や課題から小中一貫教育に今後どう取り組んでいくのか、小中一貫校設置も踏まえた市の方向性を検討し、具体的な計画を打ち出して実践していくこととなる。

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－４

1. 市町村教育委員会等の名称 : 萩市教育委員会

住所 : 山口県萩市大字江向510

代表者職・氏名 : 教育長 中村 彰利

2. 取組の名称 : 萩市小中一貫教育推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

萩市立福栄小学校・中学校を教育委員会規則によって「中学校併設型小学校」「小学校併設型中学校」（小中一貫教育校）として指定するとともに、平成28年度から3か年、一貫教育校のモデル校として定め、研究実践を積み重ねる。その研究実践を検証するとともに、成果や課題を把握し、萩市にある小中併設型の学校8校を3か年で、全てその地域の実態に応じた小中一貫教育校として指定していくことをねらいとする。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成30年度）

6月	・第1回小中一貫教育推進委員会－今年度の活動方針・活動計画の立案 ・全国学力学習状況調査、学力定着状況確認問題などにおける児童生徒の実態把握
7月	・学期末の学校評価の実施－小中一貫教育における視点を入れる ・山口県小中一貫教育推進協議会において、萩市の取組を他市町に広める
8月	・小中合同の学校運営協議会において、小中一貫教育についての学校評価の結果をもとに、これまでの取組の成果や課題の共有、具体的方策の検討
9月	
10月	・山口県学力定着状況確認問題の実施による児童生徒の実態把握
11月	・萩市立小中一貫教育校福栄小中学校研究実践発表会 ・PDCAサイクルによる児童生徒の変容の検証、具体的改善策の検討
12月	・学期末の学校評価の実施－小中一貫教育における視点を入れる
1月	・2学期末の学校評価の分析、課題の把握 ・小中一貫教育小規模校全国サミットに参加（京都）

2月	・第2回小中一貫教育推進委員会－各校の取組、成果と課題、児童生徒の変容の把握、来年度の取組への協議
3月	・小中合同学校運営協議会において、小中一貫教育についての学校評価の結果をもとに、平成30年度の取組の成果や課題の説明、協議、来年度の一貫教育の取組への検討

(3) 取組の成果

萩市小中一貫教育推進事業の3年間のまとめとして、モデル校の福栄小中学校の研究発表会を実施した。義務教育9年間を見通し、地域とともに創り上げてきた小中一貫教育カリキュラムの成果を発表した。

小中一貫教育推進委員会において、各モデル校区における取組状況や、成果と課題を共有した。分離型の学校においても、学校教育目標やめざす子ども像を統一したり、小中連携カリキュラムを作成したりと、小中一貫教育の取組が着実に推進されている。また、コミュニティ・スクールと小中一貫教育を連動させた取組が、地域に誇りをもつ子どもの育成につながっている。

(4) 今後の取組予定

全中学校区で、小中一貫教育の充実を図る。小中一貫教育校でのこれまでの優れた教育的資産を活用し、共通する学校教育目標の設定、9年間を見通したカリキュラムの編成、児童生徒及び教職員の積極的な交流、小中合同の学校行事の開催、学校評価項目の共通化等、他の中学校区でも取り入れていきたい。

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－５

1. 市町村教育委員会等の名称 : 宇部市教育委員会

住所 : 宇部市港町一丁目11番30号

代表者職・氏名 : 教育長 野口 政吾

2. 取組の名称 : 小中一貫教育推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

- ・宇部市小中一貫教育推進協議会を設置し、宇部市の小中一貫教育の方向性や教育委員会の支援の在り方等、モデル校区への支援を行う。
- ・市内の教職員全員を対象とした研修会を開催し、小中一貫教育の必要性やモデル校の研究成果等を市内の全小中学校で共有することで、小中一貫教育への理解と推進の機運の醸成を図る。
- ・「宇部市小中一貫教育ガイドライン」の作成する。
- ・啓発用「宇部市小中一貫教育リーフレット」作成・配布する。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成30年度）

6月	・第2回モデル校連絡会 ・第1回市小中一貫教育推進協議会
7月	
8月	・宇部市小中一貫教育研修会 ・第1回校長研修会ワーキンググループ
9月	
10月	・第3回モデル校連絡会 ・第2回市小中一貫教育推進協議会

11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回モデル校連絡会 ・第2回校長研修会ワーキンググループ ・先進校視察等 小中一貫全国サミットinおおつち やまぐち小中一貫教育実践発表会in和木・岩国 萩市立小中一貫校 福栄小中学校研究発表会 周南市小中一貫教育研究発表会【文部科学省小中一貫教育推進事業】
12月	
1月	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回モデル校連絡会 ・第3回市小中一貫教育推進協議会 ・モデル校実践研究発表会(宇部市校長研修会、教頭研修会) ・先進校視察復伝(宇部市校長研修会、教頭研修会)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・「宇部市小中一貫教育ガイドライン」作成 ・啓発用「宇部市の小中一貫教育リーフレット」配布

(3) 取組の成果

- ・モデル校においては、9年間を見通した特色ある教育を推進する上での児童生徒の交流や、指導方法等の研究、学校運営協議会の組織・運営等の在り方等についての研究が深まった。
- ・宇部市小中一貫教育研修会を開催したことで、教職員の小中一貫教育の必要性についての理解が深まった。
- ・「宇部市小中一貫教育ガイドライン」を作成した。
- ・啓発用「宇部市の小中一貫教育リーフレット」を作成し、学校や保護者等に配付した。

(4) 今後の取組予定

- ・宇部市小中一貫教育推進協議会及び各中学校区に推進組織を設置し、2020年度のスタートに向けた準備等を進める。
- ・各中学校区小中一貫教育グランドデザインの作成を行う。
- ・小中一貫教育推進に係る取組の「点検・評価方法」を、山口大学教育学研究科教職大学院と連携して作成する。
- ・モデル校においては、具体的な取組の実践研究を継続し、推進教員等による研修会等で成果発表を行い、他の中学校区への情報発信等を行う。

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－6

1. 市町村教育委員会等の名称

:

住所	: 山口県山陽小野田市日の出一丁目1番1号
代表者職・氏名	: 教育長 宮内茂則

2. 取組の名称

: 小中一貫教育推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

厚陽小中学校では、全国のモデル校を視察し、取組を比較して、小中一貫教育を深化するための課題を明確にし、児童生徒の実態や地域の特色に合ったよりよい小中一貫カリキュラムを構築する。また、校内研修に指導者を招聘し、学校の特色ある教育活動として自問教育を推進し、「気づき、考え判断し、行動できる」児童生徒の育成を目指す。

2020年度に小中施設一体型の新校舎が完成する埴生中学校区では、全国のモデル校を視察し、小中一貫教育にふさわしいカリキュラムや学校運営の在り方を学ぶ。また、合同研修会を複数回開き、埴生地域の人的・物的資源を教育課程に取り入れた地域連携カリキュラムを作成し、学校の特色あるカリキュラム編成に取り組む。

市教育委員会では、事業の進捗状況を市内の学校教員や保護者に知らせ、小中一貫教育についての周知を図る。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成30年度）

6月	厚陽小中学校 小中合同研修会・職員会議（以降月1回程度開催） 埴生中学校区 3校校長会（以降月1回程度開催）
7月	厚陽小中学校 校内研修 講師 平田 治氏招聘
8月	厚陽小中学校 一貫教育取組検証改善 埴生中学校区 3校合同小中一貫教育研修会の開催 講師 柳林 浩一氏招聘
9月	
10月	
11月	市教委 小中一貫教育全国サミットinおおつち 参加 復伝 埴生中学校区 県内モデル校の研究会参加 厚陽中学校区 県内モデル校の研究会参加
12月	
1月	市教委 「山陽小野田市の小中一貫教育」作成 埴生中学校区 小中一貫教育小規模校全国サミットin大原 参加

2月	市教委 「山陽小野田市の小中一貫教育」の印刷・配布 埴生中学校区 小中合同授業「THE埴生学」実施
3月	

(3) 取組の成果

厚陽小中学校では、P T A組織の一本化と小中一貫カリキュラムのマネジメントが図られ、形態・内容ともに小中一貫校としての整備が進み、小中一貫教育のよさを市内に広めることができた。埴生中学校区では、地域との関わりを示す地域連携カリキュラムが作成され、教科の小中一貫カリキュラム作成の準備が進んだ。

(4) 今後の取組予定

埴生中学校区では、平成30年度のうちに地域との関わりをまとめた小中連携カリキュラムをもとに、小中一貫カリキュラムの作成に努め、2020年度の小中一貫教育校としての開始までには、主要教科での小中一貫カリキュラムの完成をめざす。